

赤かび病  
防除（2回）の徹底で、  
赤かび粒混入率  
0.0%  
の実現に向けた取り組み

重点ポイント			対 策												効 果					
土 づ く り	・土壤改良資材の施用(適正pH6.0~6.5)・作土深の確保(15cm以上)・堆肥の施用(10a当たり2t)												・高品質で安定した生産							
排 水 対 策	・弾丸暗渠(地下排水対策)・明渠、額縁排水(表面排水対策)												・生育不良防止・枯れ熟れ防止							
適 期 播 種	・ちくしW2号11月15日~12月15日、はるか二条11月10日~30日												・適正な初期生育の確保							
管 理 作 業	・除草剤の適正な使用・土入れ、麦踏み(土壤の乾いているとき)・溝さらえ(排水口に繋ぐ)												・雑草害の防止・倒伏防止と過繁茂抑制							
適 期 防 除 (赤かび病)	・大粒大麦(穂揃い期の10日後とその7~10日後の2回)・小麦(開花期とその7~10日後の2回)												・被害粒の混入防止・高品質麦の生産							
適 期 収 穫	・大粒大麦(穀粒水分25%以下、穂首が8割以上曲がる頃)・小麦(穂首が黄化し、粒の背側が褐色となり完全粒の割合が80%以上)												・粒の損傷防止							

月 旬	11			12			1			2			3			4			5			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	上		
小 麦	主 な 作 業	土耕種子消毒 (深耕) 除草剤散布 (播種直後) 改良資材の施用 ・整地・額縁排水 (播種適期) ↔小麦	麦踏み	追土 入踏 肥 ① (本葉 3~4 葉頃)	麦踏み	追土 入踏 肥 ② (本葉 3~4 葉頃)	麦踏み	追土 入踏 肥 ③ (出穂期と その7~10 日後の2回)	溝さらえ 黄斑病防除	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ④ (開花期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑤ (開花期と その7~10 日後の2回)	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ⑥ (開花期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑦ (開花期と その7~10 日後の2回)	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ⑧ (開花期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑨ (開花期と その7~10 日後の2回)	成 熟 期
	品質目標	ちくしW2号	1. タンパク質含有率 12.0%以上	2. フォーリングナンバー 300以上	3. 灰分 1.75%以下	4. 容積量 833g/l以上																
大 麦	主 な 作 業	土耕種子消毒 (深耕) 除草剤散布 (播種直後) 改良資材の施用 ・整地・額縁排水 (事前に土壤分析を行う事) ↔大麦	麦踏み	追土 入踏 肥 ① (本葉 3~4 葉頃)	麦踏み	追土 入踏 肥 ② (本葉 3~4 葉頃)	麦踏み	追土 入踏 肥 ③ (出穂期と その7~10 日後の2回)	網斑病防除	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ④ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑤ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ⑥ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑦ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	赤かび病 防除	穂揃い期追肥 ⑧ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	出穂期	穂揃い期追肥 ⑨ (穂揃い期と その7~10 日後の2回)	成 熟 期
	大粒大麦の条件	はるか二条	1. 容積量 709g/l以上	2. 細麦率 2.5mm(篩)下に3.0%以下	3. 白度 40以上	4. 正常粒率 80%以上																

## 《品種特性》

品種名		出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈長 cm	穗長 cm	m <sup>2</sup> 当り 穂数本	10a当り 収量 kg	倒伏耐性	穗発芽性	耐病性 赤かびうどんこ
小麦	ちくしW2号	4.5	5.29	84	9.2	482	497	強	難	やや弱 やや強
大麦	はるか二条	4.3	5.15	79	6.5	654	572	強	やや難 中	極強

※播種期は、小麦：11月20日～25日前後、大麦：11月18日～12月3日前後。

## 1. 土壤改良資材 (10a当たり)

品名	使用量
炭酸苦土石灰精粒	100kg
ケイカル	160kg
ミネラルG	160kg

※麦類(特に大麦)は酸性障害に弱いので、石灰資材による酸度矯正を行いましょう(酸度矯正の目安はpH6.0~6.5)。

## 2. 播種時期と播種量 (ドリル播) (10a当たり)

品種名		11月15日～30日	12月1日～15日
小麦	ちくしW2号	6~7kg	9~10kg
大麦	はるか二条	11月10日～30日	7~8kg

※上記の品種別播種時期は、共乾施設の荷受けが競合するため必ず厳守してください。

## 3. 種子消毒

薬剤名	事項	処理方法	濃度	作業方法
トリフミン水和剤 (斑葉病、網斑病、裸黒穗病)	種子粉衣	種子重量の0.5%	種子10kgに薬剤50gを袋等に入れて、まんべんなく粉衣する。	
キヒゲンR-2プロアブル (斑葉病、網斑病(大麦)、ヤシロトビムシ(小麦))	種子塗沫	-	種子10kgに薬剤200mlを袋等に入れて、まんべんなく塗沫する。	

※ヤシロトビムシ対策(小麦)：上記種子消毒に加えてアドマイヤー水和剤を種子10kgに薬剤15gを粉衣する。

## 4. 施肥基準 (10a当たり)

品種名		基 肥		追肥① 1月中下旬	追肥② 3月上旬	穂揃い期追肥③ 4月中旬
小麦	ちくしW2号	ベスト4・4・4 40kg 又は 万能肥料 35kg	ペスト4・4・4 30kg 又は 硫安 20kg	硫安 10kg	硫安 25kg 又は六粒尿素10kg	
			たんぱく 35~40kg		硫安 15kg	
			ペスト4・4・4 30kg 又は 硫安 20kg	硫安 10kg		
			麦追肥名人 30kg			

※大豆後作の場合、基肥の量を20kgとし、追肥は生育状況に応じて施用する。

※小麦については、タンパク質含有率向上のため、必ず穂揃い期追肥③を施用する。

※穂揃い期追肥③については、以下の尿素葉面散布という方法もあります。

・動力噴霧機やブームスプレーヤにより、液剤で赤かび病防除を行う際に、防除薬液に尿素を溶かして散布する方法です。尿素については、10a当たり4.3kg(窒素成分で約2kgの換算)で防除薬液(100~150l/10a)に溶かして散布する方法もあります。散布後、小麦の穂先の芒や葉先がやがて枯れますが、生育に問題はありません。

## 5. 雜草防除基準 ヤエムグラ・カラスノエンドウ等の異物(雑草の実)混入防止を徹底 (10a当たり)

事項区分	薬剤名	処理時期	使用量(希釈水量)	使用回数	備考




<tbl\_r cells="6" ix="4" maxcspan